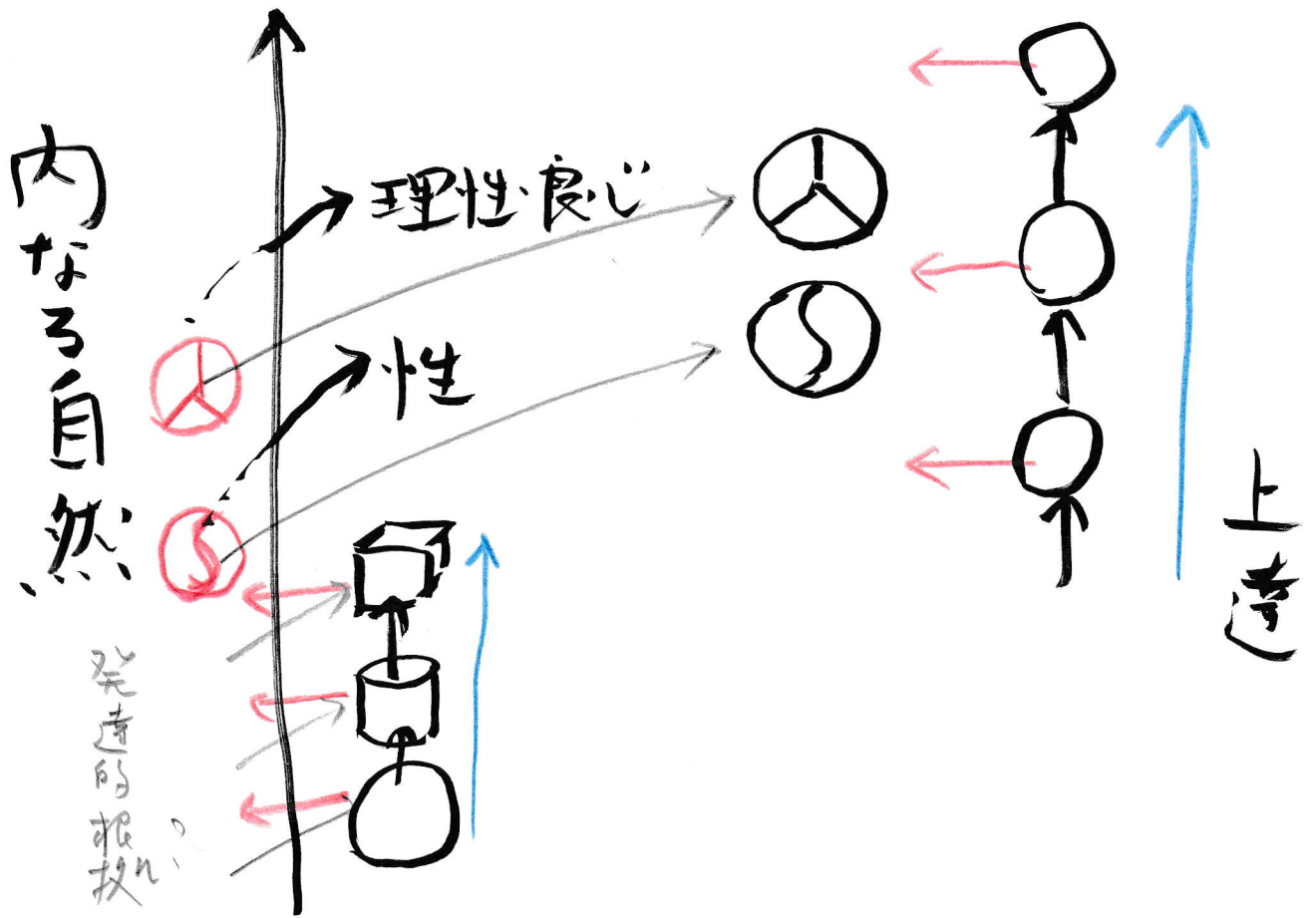


(直観の形と発達)
方法

第10回 $\frac{1}{18}$
(第9回 $\frac{1}{11}$)
~~($\frac{6}{21}$)~~

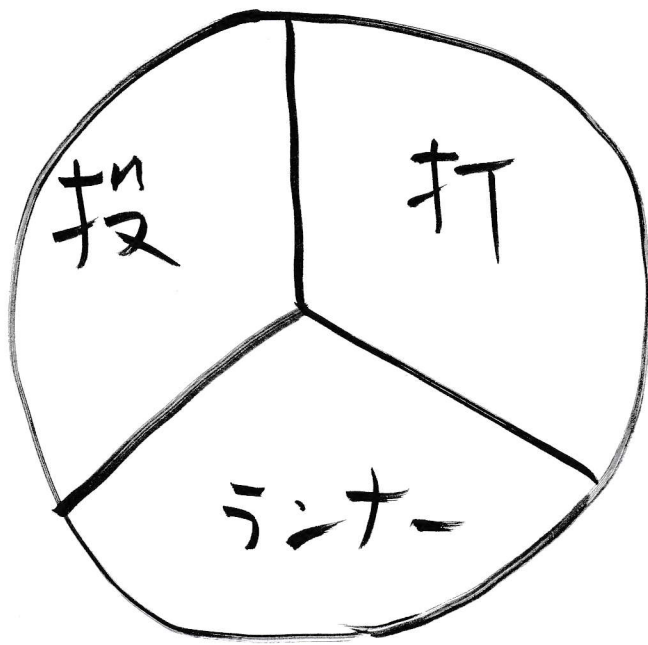
人格モデル
ロビンソン・クルーソー
ヘルバルト

ツバキ ↔ 人間
イデア { 持てし方
完全善
(可能性)



感覚 ——— 直観 ——— 理性

数・形・ことば



生れつき—習慣—理
(衝動)

テキスト
P. 67

【方法の選択】

生活教育の実践の面白いところは、その方法の多彩さです。何か教育の方法をひとつ思い浮かべてみてください。生活教育では、それにとらわれず、すぐ広げます。「一時での指示はひとつ」という方法はよく使われています。教育実習でも、実習生がごちやごちや指示して子どもが混乱するとき、ひとつの指示を明確に出して徹底しなさいと「指導」がはいることが多いでしょう。

生活教育では、両極を考えます。一時にくつも指示する方法もあるだろうし、場合によつたら指示しないこともあるかもしれません。そうすると、この両極の幅の中で、いろいろな指示の方法があることがわかり、その多彩なバリエーションの中からひとつ選ぶ、という豊かな選択肢をもった教師になります。はじめに考えた方法の弱点もわかり、ひとつの方法を絶対化して視野を狭くすることや「定型化」からも逃れられます。「一時での指示はひとつ」の方法を積み上げれば、「授業書」のようなマニュアルができ、子どもた

生活教育 キーワード

ちを「上手に」「動かす」ことができるようになるかもしれません。でもそれは子どもたちから、迷う機会別のことをする機会、そして何のための指示かを考える機会を奪い、「指示待ち人間」を育てているかもしれません。では、バリエーションの幅の中でどれでもいいかというところ、そうでもありません。目の前の子どもたちをよく見て、それにあわせるのです。子ども理會、発達研究が方法選択の基準となります。

私たちが、ハウツー本や授業書からも〈学ぶ〉ことができるのは、「ええーっ、ちがうやり方もあるんじゃない」と書いていない方法を思い浮かべられるのと、その違和感は子どもも持つだろうと感じて、子どもを想定したちがう方法に修正して考えるきっかけにできるからでしょう。

(研究部・加藤聡一)

〈参考文献〉

- ① ルソー(今野一雄訳)『エミール(上)』岩波文庫、岩波書店、改版二〇〇七年(原著一七六二年)、一七二、一七三、二四〇ページ。
- ② 九鬼一人『新カント学派の価値哲学 体系と生のはざま』弘文堂、一九八九年。リッカート哲学のまとめ。デュイイが批判した価値論(教科論)。三九ページ。



可能性

選択

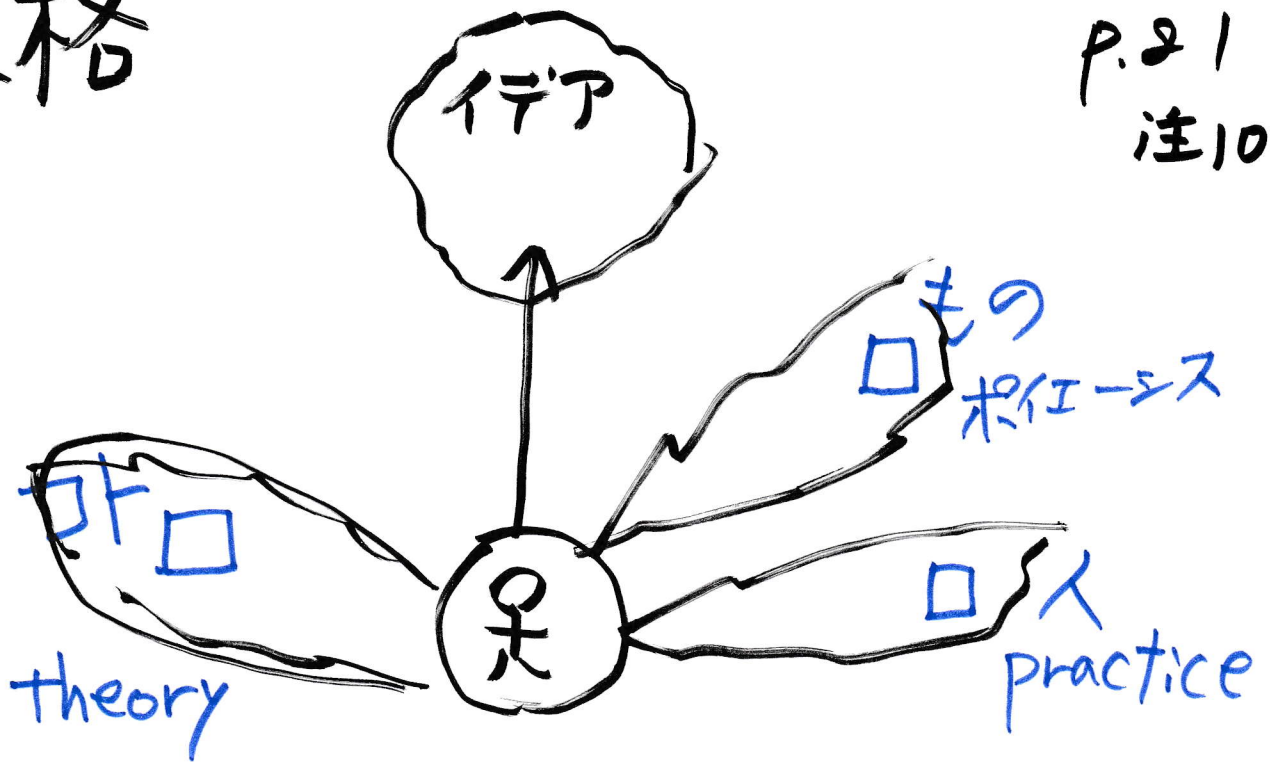


エーリッヒ・フロム

自由からの
逃走

人格

p.21
注10



【人・もの・コト】

生活教育の中でも、特に社会科や総合学習で、「地域にある人・もの・コト」を発見する・かかわる」などとよく使われるフレーズです。

子どもや地域、また自分の教育実践を見ると、忘れてちなことを思い出し、全体像を描くうえで大変有効な視点です。

近代の教育は、知識や学力、つまり〈コト〉に集中する悪い傾向があります。人やものとの切り離されたままでは、〈コト〉の内容自体も単なる記号や徳目に墮していききます。

コペル君は、〈人間分子の関係、網目の法則〉を発見します。粉ミルクが搾乳から赤ちゃんとやんが飲むまでに、オーストラリアから日本まで、多くの人の手を介して届けられているコトが発見されています。人と人の関係を、市民でとどまらず、生産・労働という〈もの〉を介したつながりとしてとらえています。

算数で抽象的なかかけ算という〈コト〉を学ぶときでも、それを話し合いという〈人〉の関係に乗せ、また

生活教育 キーワード

チョコレートなど生活の中にある〈もの〉で使われることで、〈コト〉の理解は深まります。

哲学的には、アリストテレスのテオリア、プラクシス（社交）、ポイエーシス（制作）に対応し、ペスタロッチだと、〈頭・手・心〉と対応します。ヘルバルトが、ポイエーシスや〈手〉を欠落させて、陶冶と訓育（教科と特別活動）だけで〈教育学〉を組み立ててしまったので、生活教育はこの回復をはかり、〈もの〉を強調して、生産・労働や芸術制作、教室への持ち込みを重視してきました。

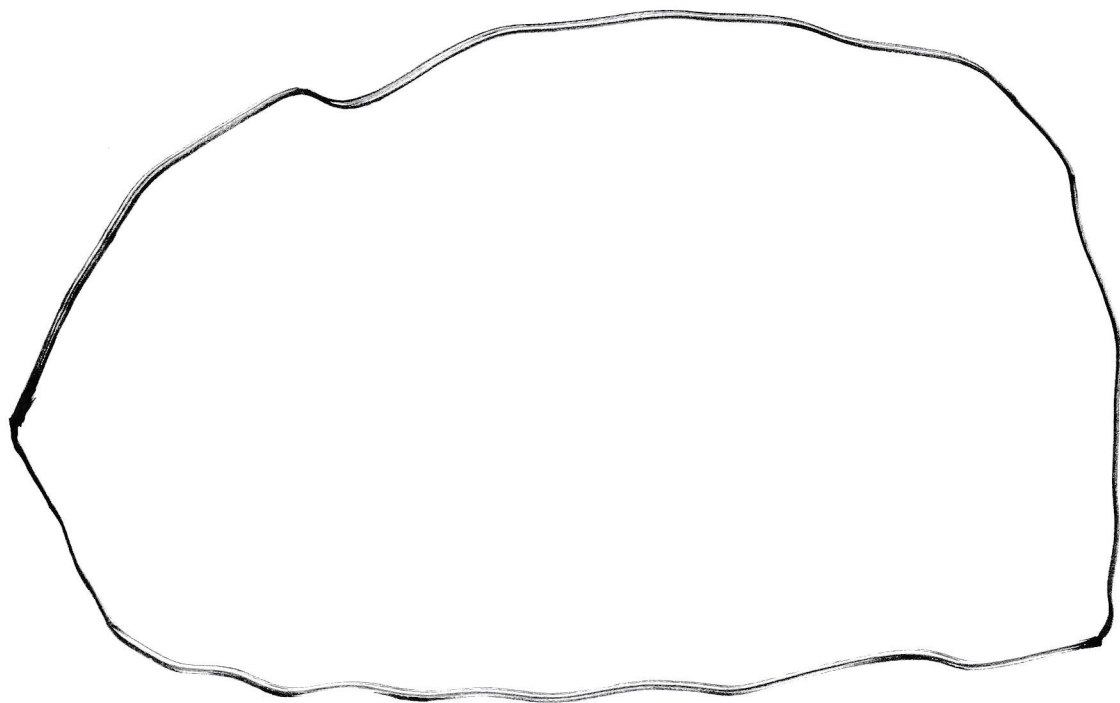
東日本の復興再生にあたって、資源という〈もの〉の視点を持っている教育が決定的に重要です。

（研究部・加藤聡一）

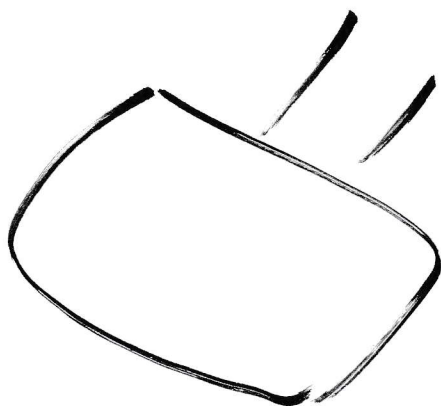
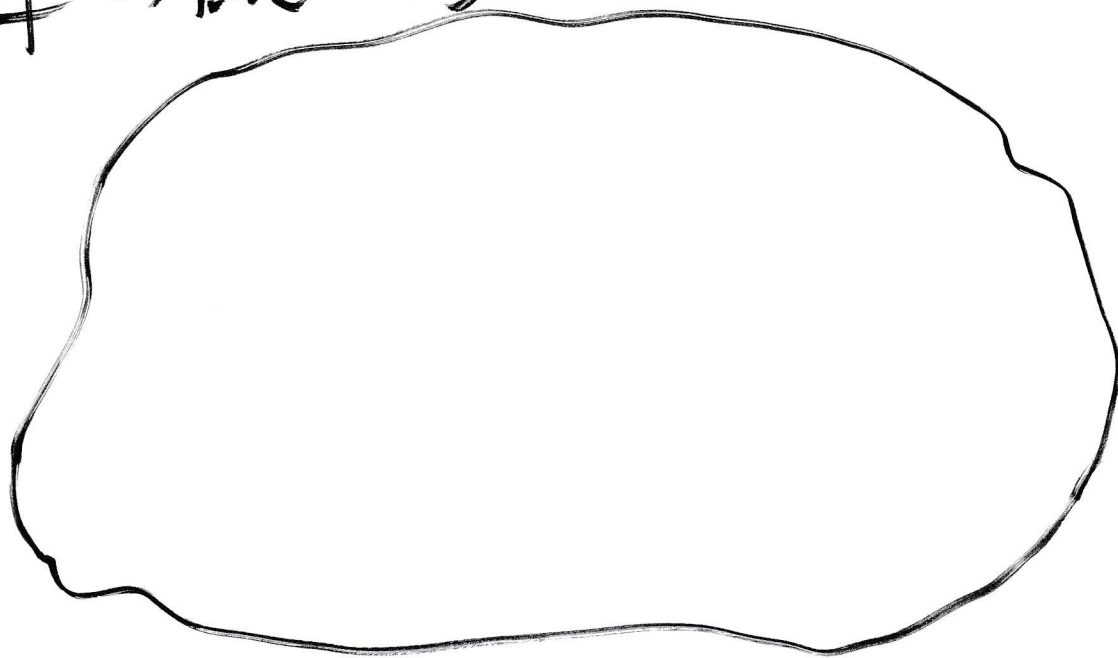
参考文献

- ① 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』（岩波文庫）岩波書店一九八二年（原著一九三五・昭和十年）。特に八十四ページ。
- ② 荒木寿友『学校における対話とコミュニティの形成 コールバーグのジャスト・コミュニティ実践』三省堂、二〇一三年。特に一四八ページ。

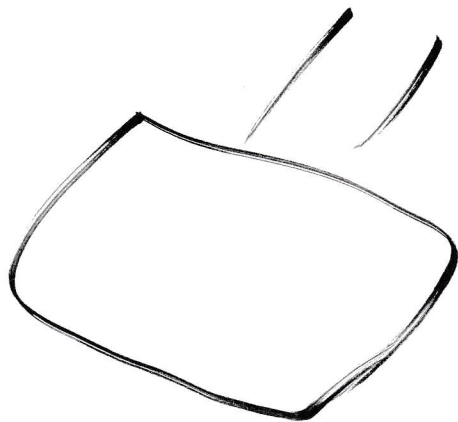
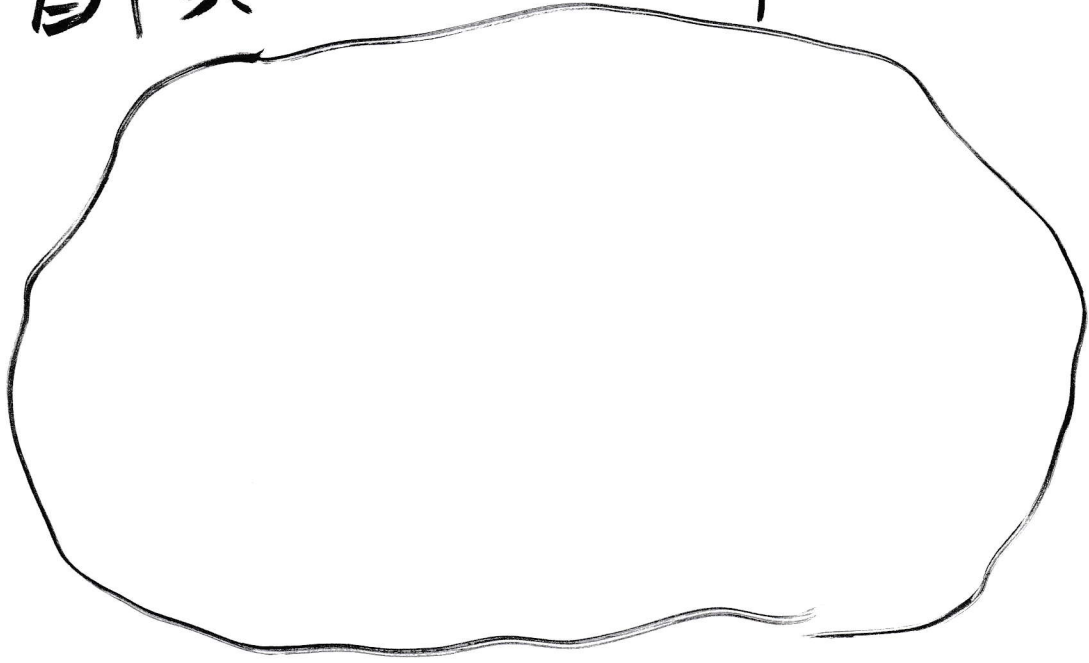
ロビンソン・クルーソー



本の読み方



習字 DE Ch. 4 §2 p. 81-87



ヘルバルト

教育学

新教育運動 = 反ヘルバルト
運動

現代哲学 = 反イデア

山崎 草見リカ 西洋の教育の歴史
 シルビア 2010年

図 7-1 ヘルバルトの教育的教授の体系

